

追悼 名誉会員・前会長 山岡 武君

本会名誉会員・前会長 山岡 武君は、病氣療養の所、昭和 57 年 5 月 13 日 90 才で逝去されました。ここに同君の冥福を祈り、つつしんで哀悼の意を表します。



弔 辞

日本鉄鋼協会元会長山岡武殿の訃報に接し、誠に哀悼にたえず、謹んで弔辞を呈します。

山岡氏は、昭和 23 年から 2 年間協会会長を勤められました。戦後鉄鋼業混乱の時に於いて商工省、鉄鋼連盟、鉄鋼協会各研究委員会を一本化しての共同研究の必要性を強調され、現在の日本鉄鋼協会共同研究会の基礎を作られ、自ら熱経済技術部会、品質管理部会の初代部会長に就任されました。そして、昭和 29 年から 45 年までの 16 年間は共同研究会運営の総責任者である幹事長を引き受けられ、その発展に大きな寄与をされました。この鉄鋼業の共同研究は他に例をみない画期的なもので、今日の日本鉄鋼技術を築いた原動力の一つと言つても過言ではないと思ひます。

山岡氏は共同研究の面のみならず、日本鉄鋼協会の基盤の確立、拡充強化の必要性を痛感され、三島徳七博士、浅田長平氏その他歴代会長と共にその実現に努力されまして、当協会を今日の姿にまで育成して頂いた、まさに協会のおやじでございました。

又、山岡氏の協会長時代に戦後初めてわが国から米国へスチールミッションが派遣されました。これは山岡会長が GHQ に懇請された結果実現したもので、この調査結果は復興期における日本鉄鋼業の技術の方向付けに大きな貢献をしたものでございます。

昨年 6 月山岡氏が満 90 才を迎えられた機会に有志によつて募金が行われ、発起人代表和田亀吉氏から当協会に資金 700 万円が寄贈されました。協会はこの資金をもつて山岡賞を設け共同研究に多大の功績のあつたものに授与することといたしました。実はその第 1 回の授賞式がこの秋に行われる予定でありまして、少くともその時までは山岡氏のご健在を強く念願していたものであります。このような時に他界され、誠に痛恨の思いがいたします。

ここに日本鉄鋼協会会員一同を代表し、山岡氏の鉄鋼技術発展へのご貢献に改めて敬意を表すると共に謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

昭和 57 年 5 月 15 日

社団法人 日本鉄鋼協会会長 松下 幸雄